

センバツ初出場に歓喜する別府青山ナイン (撮影・菊川光一)



# センバツ出場32校決定

# 別府青山 悲願 切符

メンタル強化へ成功者の話読み公開スピーチ



**78年創部 部員27人**

◆県立別府青山 1964年(昭39)女子校として創設され、77年男女共学になった。普通科に480人(女子271人)が学ぶ。野球部創部は78年、部員27人。05年、初出場の夏の甲子園は1回戦で東北に敗退。昨秋の九州大会は準決勝で優勝した神村学園に敗れた。0日は指揮者の山田啓明(原60000991、大塚 徳百校長)が、

## メンタル強化へ成功者の話読み公開スピーチ

**県勢の年々**

悲願のセンバツ初出場。県勢3年ぶりの明線にナインは喜びを爆発させた。グラウンドでの報告後、天に手を突き上げ何度もガッツポーズ、書道部員にも拍手でのお祝いメッセージ。シバフオーマンも披露され盛り上がった。上原大樹主将(20年)は「ホッとしますが目標は全国制覇。気持ちを切り替えない」と気を引き締めた。

昨秋の九州大会では準々決勝で福岡工大城東のプロ野球左腕、笠原を攻略するなど、の快進撃で4強入り。悲願の全国切符をたぐの寄せたが、背景には伊藤清明監督(42)の「チーム改革」があった。監督によると、とにかくメンタルが弱かったとどうも、そこで甲子園出場校の利用実績を持つサクモスプラン研究所(天保)のメンタルトレーニングを県で初導入した。

### 自信ついた

コンピュータ、iPad、スマートフォン、タブレット端末の活用。7日目に感想や目標について3分間公開スピーチする。それを繰り返す内容だが、これが効果的だった。昨年1月から3カ月間取り組んだ選手の手の集中力、継続力、理解力が飛躍的に向上。毎日1000回インクをなぞる精神力にもなった。

独自練習も実った。昨春から打撃投手が8〜10分の距離から高め、低め眼差に投げるフリー打撃を実施。体感速度が1.40。中盤の球を1人60球打つことでヘッドが上がり、球の見極めに役立った。上野主将は「パワーアップで自信がついたことが大きい」と成果を認めた。

指揮官の執念が実ったとも言える。甲子園は97年に初めて訪れた。人目ははばかり泣いた憧れの地。「出る以上」が相手でも「勝つて行く」(伊藤監督、休日を利用した関西強豪校視察や毎年の夏の甲子園訪問で得た知識も駆使し、常連校にも負けない初攻配を見せるつもりだ。

【菊川光一】

甲子園 縮れ1す打か番に英